



## ●下赤阪の棚田（千早赤阪村）

日本の中山間地域で見られる棚田は、農地としての役割のほかに、国土保全や優れた自然環境の維持、美しい農村風景の形成などさまざまな役割を果たしています。「下赤阪の棚田」は、こうした棚田の良さを保全・整備し、将来にわたって棚田の活用を進めてきました。このような取組が評価されてか、平成11年には、農業や農村に対する理解を深めてもらうことを目的とした、農林水産省の「日本の棚田百選」に選定されました。

「下赤阪の棚田」は、村の北西部に位置し、南北朝時代の武将・楠木正成が築いた山城である下赤阪城址の西側斜面に段々につくられた棚田の総称です。下赤阪城址付近からは、東に金剛葛城連山、北西に河内平野が望め、計250枚（面積7.4ha・甲子園球場の約2倍）の幾何学的な模様が四季折々の変化を映し出し、風光明媚な景観を形成しています。

村内のいたる所に見られる棚田は、懐かしい農村の風景を思い出させますが、とくに「下赤阪の棚田」は地元農家の人たちによって美しく手入れされ、また下赤阪城跡など歴史的な風景とよく似合い、絶好のハイキングコースになっています。千早赤阪村では例年、田植えが5月末から6月上旬頃、刈り入れが9月末から10月上旬頃に行われます。棚田は、春先の「水を



引き込んだ棚田」、初夏の「早苗が風にそよぐ棚田」、真夏の「青々とした棚田」、秋の「黄金色の稲穂が波うつ棚田」、冬の「雪景色の棚田」など、四季それぞれに美しい姿を見せてくれます。

「下赤阪の棚田」の平均傾斜は1/6と急峻で、主として水稻が作付けされていますが、農業従事者の高齢化や後継者不足により、耕作放棄地も増加の傾向にあります。これらの耕作放棄地の解消・防止を目的として、地元農家15名により「下赤阪棚田の会」が平成12年に組織されました。主な棚田保全活動は、遊休農地で都市住民に農作業体験（じゃがいも・さつまいもの植え付けから収穫）をしていただき地域の活性化を図っています。また、今年からは棚田景観のPRとしてコスモス園を開園し、たくさんの方が訪れています。四季を通じていろんな姿を見せる「下赤阪の棚田」にぜひお越しください。

※行き先 近鉄富田林駅から、金剛バス<千早ロープウェイ前>行で「千早赤阪中学校前」下車、バス停から徒歩5分

### ▼お問い合わせ先▼

千早赤阪村産業振興課  
TEL 0721-72-0081